

神奈川	都道府県	国立・公立・私立	(フリガナ)
学校名 T 小学校			担当者氏名 K 先生

1年 算数

単元「10までのかず」

ねらい 10までの数の意味と数え方が分かり、その数の大きさや構成が分かる。

単元「いくつといくつ」

ねらい 10までの数を正しく分解・合成することができる。

単元「たしざん」「ひきざん」

ねらい 加法・減法の計算が正しく処理できるとともに、加数や被加数、減数や被減数をいろいろな数に置き換えて計算することができる。

授業の最初に、教師用の百玉そろばんで、数唱の練習をおこなう。1ずつ、2とび、5とび、10とび、5の分解、10の分解等テンポよく繰り返しおこなう。子どもたちは、目で見ても、数量感覚をつかみながら集中して練習することができた。

児童用の百玉そろばんを使い、自分で玉を操作することで、より、体感的に数の感覚を養うことができた。おはじきに比べ、並べる手間や紛失の心配がなく、教師用を見て、同じように玉を動かすことができ、指先の細かい動きが苦手な子にとって扱いやすい教具である。

2年 算数

単元「1000までの数」

ねらい 1000までの数の読み方や表し方、大小比較、数系列などが、確実にわかる。

百玉そろばんの1玉を10や100として数唱の練習を短時間、繰り返しおこなった。そろばんの玉を動かしながら、数えることにより、10ずつ、100ずつまとめて数を数えればよいことや、十進位取り記数法のしくみを理解することができた。

3年 算数

単元「かけ算」

ねらい 乗法の交換法則や分配法則などを見つけることができる。また、それらを有効に活用して、0の乗法や何十・何百に1位数をかける乗法が確実にできる。

2年生で学習したかけ算九九を百玉そろばんの玉を動かしながら、さらに定着を図った。7×6と6×7の答えが同じになるわけをそろばんの玉を置いて考え、説明する活動をおこない、乗法では交換法則が成り立つことを確認することができた。また、7の段のかけ算では、乗数が1増える

と積が 7 増えるわけを、そろばんを用いて説明することができた。

5 年 算数

単元「小数と整数」

ねらい 十進位取り記数法の原理や小数第一位の表し方をもとに、より小さな量の表し方を考えることができる。

そろばんの 1 玉を 0. 1、0. 01、0. 001 として数唱の練習をおこなう。小数の表し方や十進位取り記数法による小数・整数のしくみがよく理解できた。

6 年 算数

単元「倍数と約数」

ねらい 倍数・公倍数・最小公倍数や、約数・公約数・最大公約数の意味と求め方がわかる。

そろばんの玉で倍数をあらわし、倍数の意味・求め方を理解した。

玉を敷きつめて正方形を作る問題について考え、縦と横の長さを同じにすることと、公倍数を見つけることは同じことであることに気づいた。

いろいろな単元で活用することができると考えられる。また、児童用を 1 人 1 つ使うことで、操作しながら思考することができる。

教師用のそろばんを提示しながら、児童も同じように玉を動かしたり、児童用のそろばんを使って考えた方法を、他の児童に教師用のそろばんを使い説明するなど有効活用することができた。

今後、どの場面で教師用そろばんを使うか、児童用そろばんを使うかを検討していきたい。